

2.4 英語分野

1 3年間の計画

(1) 1年次の目標

- ア 英語の科学用語に習熟させる。
- イ 500語程度の科学論文を3学期に英語で書かせる。
- ウ 英語による理科及び数学の授業をAETを活用して行う。

(2) 2年次の目標

- ア 1年次の"Science"の教材を最後まで読み進め、全般的な科学知識を英語で掴ませる。
- イ 1学期は環境分野の論文(100語前後)を英語で2回書かせ、2学期は身近な科学的な疑問、例えば、看護婦はなぜ白衣を着ているか、ドーナツの穴の開いているのはなぜか等を英語で(100語前後)で書かせる。3学期には各自好みの科学的テーマで英語論文を(150語前後)で書かせ、論理的な英語文の書き方を習熟させる。

(3) 3年次の目標

- ア 2年次のテーマをさらに発展させ、他の分野とも絡めて論文を作成させ、各自のテーマが現代社会においてどのような意味を持つか、広い視野で考えさせる。
- イ 生徒の進路に応じて英文をたくさん読ませる。新聞、雑誌、テキストなどから現代的な話題を提供する。

2 2年次の実施プログラム

(1) 教材：FOUNDATION SCIENCE to 14

(2) 授業の方針

テキスト(英語の中学生用教科書)を1時間の授業で4～5章のペースで読んでいく。その際、科学的知識の再確認と科学的用語の把握に努めるとともに、理科的現象を英語で説明する手順や方法を学ぶ。各章ごとに英語で要約させ、適宜添削指導を行う。学期毎にAETを利用した英語のみによる理科の授業を展開する。

(3) 授業の留意点

- ア 科学用語の正確な発音
- イ 科学用語の日常語との対比
- ウ 章ごとの英語での要約
- エ 英語論文の論理性の追究
- オ 英語での授業の試み
- カ 常識的な科学知識の定着
- キ 現代的、先端的な科学知識の説明
- ク 生徒に発表させる機会の設定

(4) 最終目標

- ア 一般的な科学知識に精通させる。
- イ 基礎的な科学用語の英語での定着化を図る。
- ウ 簡単な科学論文を英語で書かせる。